

日々新聞

第七号

東京小石川原町に無祿の士族鈴木定次郎  
 の兇盗の爲小致害され一事實このやを  
 明治八年弥生の末三日午前時頃ありて  
 花小嵐ののろく敷く落散り有一割魚刀を  
 巽大區四等寺出仕石川金造 命と苦水り是れ一取揚げ  
 及く詠め又足跡の向りを葉菜ひ鞭打如く  
 駒込の行町富川寺八分其日庵下を警備一小手掛りを  
 りとめ定次郎が一子長え助と和せざる  
 より家分けらる小心附長え助を  
 招き一跡草首を捜まげ  
 定次郎の衣服をとして出て  
 犯入子事極り直に捕縛  
 其れ一守貝と天暴悪を  
 示し早く良才の巡査出への  
 懼へ事あるる

玉源池



眞信画

鈴木定次郎

九一

